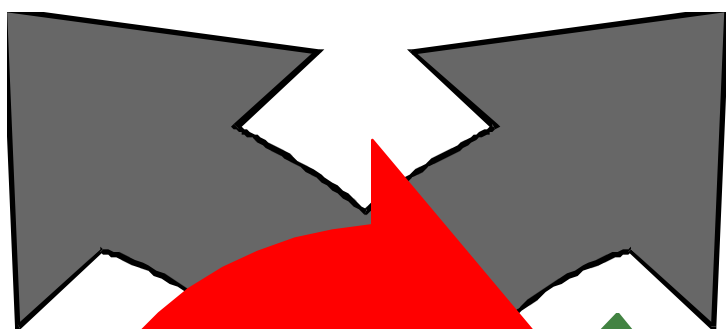


# ■21世紀を 創造する 京都学習協の 文化ゼミナール

第2回 21世紀を創造する  
京都学習協の文化ゼミナール



京都学習協は、2013年に創立50年を迎えます。これを記念して“文化ゼミナール”を企画しました。哲学、歴史、文学など、はばひろく文化問題をあつかったゼミナールとして展開してゆきたいと思ひます。みなさんの積極的参加をよびかけます。

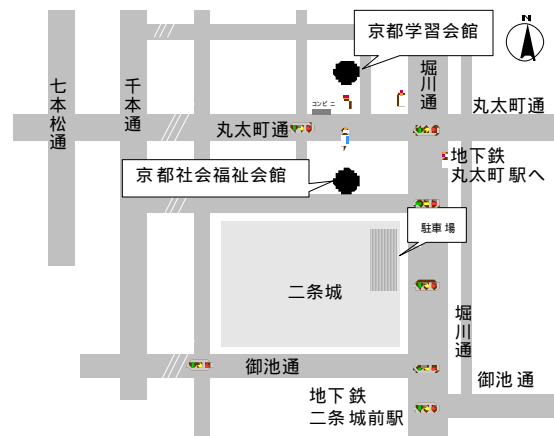
京都労働者学習協議会 電話(075)841-8141 FAX(075)821-3665

## 第2回 京都学習協の文化ゼミナール募集要項

申し込みは、「申込書」に必要事項を記入し申し込んでください。  
FAXでも申し込み出来ます(受講料は必ず第1講義日にお願いします)。  
講義時間は、午後1時～5時(休憩を含みます)  
受講料は、11,000円(税込み)です。  
『京都学習会館』(上京区堀川丸太町西一筋目上ル)です。  
電話(075)841-8141 FAX(075)821-3665

自転車・バイク・自動車の駐車場はありません。二条城市営駐車場へお願いします。(自転車は会館の周りは住宅街ですので止めることは出来ません)

地下鉄丸太町駅・二条城前駅から『京都学習会館』まで歩いて10分以内です。



第2回 京都学習協の文化ゼミナール申込書	申込み日時	年	月	日
フリガナ:		性別	年齢	
氏名:		男・女	才	
現住所:				
職場・学園:				
労働組合名:	(全国単産名: )			
電話: 職場 ( )	自宅 ( )			

## テーマ1 日本社会を構造的に把握するために VOL. 2

09月16日 日曜日	<h3>第1講義 「大日本帝国」のもとでの人民闘争 自由と民主主義の源流を学ぶ</h3> <p>我々は、「大日本帝国」の圧政のもとで人民は虐げられ暗黒の時代として一色に塗りつぶしてしまっていないだろうか。その時代に現代の闘いにつうじる「源流」が存在していることを学ぼうではないか。「自由と民主主義」といえば米欧の「専売特許」とでもいうような理解で21世紀の日本社会の進歩的変革を実現できるのであるだろうか。</p>	原田 敬一 佛教大学教授
10月07日 日曜日	<h3>第2講義 東アジア3国の近現代史 日・中・韓の「歴史認識」を考える</h3> <p>歴史的にも不可分な隣国の「歴史認識」をめぐって繰り返される「騒動」。国内でも「好戦勢力」が隣国をこえだかに非難を繰り返し、政治が引きずられる危険な事態が今日も存在し、こうした反動的な動きに毅然として反対する動きが求められている。そこにとどまらず、3国の歴史認識は、どこで一致しどこで不一致なのか、そこへ迫る学習の一步を踏み出そうではないか。</p>	井手 幸喜 京都橘大学講師

## テーマ2 イデオロギーの最前線 VOL. 2

11月04日 日曜日	<h3>第3講義 カント哲学と平和主義 世界の構造変化を読む</h3> <p>21世紀の今日、世界の各所に「地域共同体」が形成され、これまでに無い新しい躍動がまきおこっている。世界の「構造変化」だ。EUでも中南米でも東南アジアでも、最初に、共同体の核になっているのが「平和の共同」だ。「EUの危機」の中で常にすえなおされるのはこの原点。「平和主義」とはどういうものか。現代世界の「構造変化」を解くカギを学びとろうではないか。</p>	鯨坂 真 関西大学名誉教授
12月02日 日曜日	<h3>第4講義 マルクスの「宗教とその未来」論</h3> <p>「マルクスの「宗教とその未来」論」は、彼の宗教論の今日的検討である。マルクスは19世紀ヨーロッパの支配イデオロギーとしてのキリスト教を批判した。宗教イデオロギーは社会的現実の反映である。それには現実の変化が先行して変わる。その現代の事例として「解放の神学」などを検討する。さらに自然宗教性を残した日本の宗教状況にも触れながら、宗教の質的变化の歴史の検討の中で、マルクスの宗教イデオロギー消滅論を論じる。 (「マルクスの「宗教とその未来」論」が所収されている鯨坂・牧野編「マルクスの思想を今に生かす」のまえがきから引用)</p>	伊藤 敬 哲学・宗教・芸術論研究者